

雄物川流域における市町村森林整備計画の策定支援

～民有林と国有林のフォレスター等の連携～

東北森林管理局 秋田森林管理署  
 地域林政調整官 三浦 雄幸  
 森林技術指導官 伊東 弘至

1 課題を取り上げた背景

秋田県と東北森林管理局は、現場で森林経営の指導・実行を担う市町村等に対し、民有林と国有林のフォレスター等が相互に連携して技術面から支援するため、平成25年7月に「秋田県フォレスター協議会」を設置するとともに、流域ごとにフォレスターチームを編成し、具体的な活動に取り組むこととなりました。

特に、雄物川流域については、平成26年度が市町村森林整備計画の策定年度であり、双方のフォレスター等が連携し、チームとして策定支援を行うのは、秋田県内では初めてのことであったことから、平成25年度から26年度にかけて実施した取組内容を報告します。

2 取組の経過

森林法の改正に伴う平成23年度中の計画の一斉変更では、作業の時間が限られていたこと等から、各市町村ともに県の雛形どおりの計画書になっていました。このため、今回の策定ではこれを改め、「基本方針等への地域性の打ち出し」を目標に、以下の取組を実施しました。

(1) 平成25年度

市町村担当者を対象とした「次期の市町村森林整備計画の作成に向けての研修会」と、森林・林業・木材産業関係者も含めた「雄物川流域の森林・林業・木材産業についての意見交換会」を開催し、①計画内容について改善して欲しい事項の提案、②現状及び課題を把握するための事前アンケートを実施し、意見交換を行いました。

(2) 平成26年度

平成25年度 of 取組を踏まえ、市町村担当者を参集した「市町村森林整備計画の作成に向けての全体研修会」を2回開催し、①第1回では、作成のポイント等について説明・意見交換を行うとともに、森林施業プランナーの協力も得て、各市町村の計画策定推進体制を決定、②その後、基本方針の原案の作成等を進め、第2回では原案について意見交換を行い、この段階で案として仕上げ、市町村長に報告等を行いました。

3 実行結果

市町村担当者に対し、作成過程における議論等を通じてチームの意図を説明し、全市町村で基本方針等に地域性を打ち出すことが出来ました。

市町村	主な地域性の打ち出し事項等
秋田市	・森林資源活用地域通貨券の活用による森林整備の促進 ・水源涵養機能及び木材生産機能維持増進森林の拡充
大仙市	・市民が気軽にふれあえる「ふれあいの森」を整備 ・水源森林地域の積極的な指定
仙北市	・供養仏地区の土砂災害を踏まえ、山地災害危険地区等を山地災害防止等機能維持増進森林に指定し、治山事業を推進
美郷町	・水源域の保全を図るため、植樹活動を積極的に推進 ・「生薬の里 美郷」として、生薬の原料となるホオノキ等の薬用植物を植栽
横手市	・植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の指定
湯沢市	・雄物川最上流に位置することを踏まえ、水源涵養機能を重視した森林整備を推進
羽後町	・地元高校生等によるブナ植樹活動への支援(町有林を活動フィールドとして提供)
東成瀬村	・水源の森を育む森林体験教室の実施(地元小学生による植樹や保育、スキー場跡地を広葉樹林として再生)

各市町村の地域性の打ち出し事項等

4 考察

地域性が打ち出され、一定の成果は得られたと考えていますが、浮き彫りとなった「造林未済地問題」等の課題への対応については、計画書には記述したものの、更に掘り下げ、具体的な取組につなげる必要があるところです。

このため、雄物川流域林業活性化センターとも連携し、引き続き森林・林業・木材産業関係者も含めて意見交換を行う中で、課題解決に向けた具体的取組を検討するなど、川上から川下間のコーディネーターの役割を果たすべく取り組んでいくとともに、市町村森林整備計画の着実な実行監理支援に取り組んでいく考えです。